

ぶら多摩クラブ・江戸文化を楽しむ会

共催ウォーキング

103 2025

台東区



葛重の世界を訪ねて

6月13日（金）東武スカイツリーライン浅草駅 正面改札外

10:00集合

コース： 浅草駅⇒蔦屋重三郎の墓碑（正法寺）⇒ 平賀源内の墓
⇒ 見返り柳 ⇒ 五十間道と耕書堂跡 ⇒ 吉原大門跡 ⇒ 吉原神社
⇒ 一葉記念館 ⇒ 浄閑寺 ⇒ 三ノ輪駅 約10km

昼食はレストランにて

申込は各クラブ、会へ 申込期限：6月10日（火）

小雨決行

I はじめに

蔦屋重三郎は、寛延3年（1750）に、江戸・新吉原（現在の台東区千束）で生まれ、20代で吉原大門前に書店「耕書堂」を開業しました。「吉原細見」や「黄表紙本」の発行に携わる中で、エレキテルを復元した平賀源内をはじめ、多くの文化人と交流を深めました。そして、教科書でもお馴染みの東洲斎写楽や喜多川歌麿ら、江戸文化を代表する作家たちを見出し、「江戸のメディア王」として大成功を収めた人物です。（台東区ウェブサイトより引用しました、特にコメントがなければ以下同様）

II 見どころ

1. 蔦屋重三郎の墓碑（正法寺）



蔦屋重三郎は寛政9年（1797）に47歳で病没し、正法寺に埋葬されました。墓は戦災等で失われましたが、菩提寺である正法寺には復刻された蔦屋家の墓碑と重三郎母子顕彰碑が建てられています。碑には蔦重の本名「喜多川柯理」が刻まれ、碑文は蔦重と親交のあった石川雅望、大田南畝によるものです。寺には江戸三大毘沙門天の一角に数えられる開運大毘沙門天もお祀りされています。

2. 平賀源内の墓

エレキテルの復元で有名な平賀源内は、発明家だけでなく、本草学者・地質学者・蘭学者・戯作者など多彩な才能をもち、蔦屋重三郎からも吉原細見『細見嗚呼御江戸』の序文執筆を依頼されました。源内は、安永8年（1779）に殺傷事件を起こして獄死し、台東区橋場にあった総泉寺に葬られました。寺は後に移転し、現在は墓のみが残されています。



3. 見返り柳

吉原への出入口となる日本堤には柳の木が植えられており、遊郭帰りの客が名残を惜しみつつ、この柳のあたりで振り返ったことからこの名がつけました。かつては山谷堀脇の土手にありましたが、震災や戦災等で数代にわたり植え替えられており、現在は「吉原大門」交差点付近に植えられています。



4. 五十間道と耕書堂跡

見返り柳から吉原大門へと続くS字に曲がった通りが「五十間道」です。S字カーブを描いていることにより、日本堤から吉原の様子が見えないよう工夫されてい



ました。 蔦屋重三郎は20代でこの五十間道に書店「耕書堂」を開業し、その才能を開花させました。

5. 吉原大門跡

吉原遊郭の唯一の出入口であり、治安の維持と女性の出入りを厳しく監視するため、大門の先には番所が設けられていました。門は火災等により何度か建替えられましたが、関東大震災で焼失したのを最後に再建されることはなく、現在では大門の柱を模した「よし原大門」と書かれた街灯が建っています。



6. 吉原神社

吉原遊郭には、吉原大門手前の「吉徳稲荷」、廓の四隅の「榎本稲荷」、「明石稲荷」、「開運稲荷」、「九郎助稲荷」という5つの稲荷社がお祀りされていました。これらの5つの稲荷社が明治14年に合祀されて創建したのが「吉原神社」です。その後、近隣の吉原弁財天も合祀され、現在では計6つの神さまが祀られています。



7. 一葉記念館

明治時代の女流作家樋口一葉を顕彰する文学館。一葉がかつて暮らした台東区竜泉にあります。処女作「闇桜」原稿や、「たけくらべ」草稿、小説の師半井桃水宛書簡や龍泉寺町で商売を営んだときの「仕入れ帳」等重要な資料を展示しています。（一葉記念館ウェブサイトなど参照）



8. 浄閑寺

浄土宗の寺院。山号は栄宝山。浄閑寺は安政2年（1855）の大地震の際にたくさんの新吉原の遊女が投げ込むように葬られたことから「投込寺」と呼ばれるようになった。花又花酔の川柳に、「生まれては苦界、死しては浄閑寺」と詠まれ、新吉原総霊塔が建立された。檀徒のほか



に、遊女やその子供の名前を記した、寛保3年（1743）から大正15年（1926）にいたる、幾十冊の過去帳が現存する。遊女の暗く悲しい生涯に思いをはせて、作家永井荷風はしばしば当寺を訪れている。「今の世のわかき人々」にはじまる荷風の詩碑は、このような縁でここに建てられたものである。（浄閑寺ウェブサイトより引用）